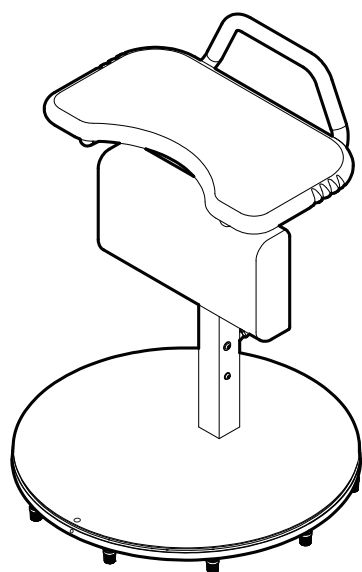


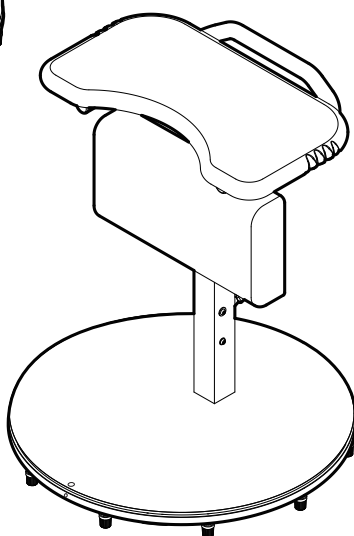
取扱説明書

たちあっぷ® ひざたちち®C 回転式

品番：CKL-12A、CKL-12B



CKL-12A



CKL-12B

目次

！ 安全に関する表示	2
1. 使用上のご注意	2
2. ご使用方法	5
3. 設置上のご注意	12
4. 仕様	13
5. 部品表	14
6. 組立手順	15
7. テーブルの高さ調整	16
8. ロック機構メンテナンス方法	17
9. ご使用前の確認	19
10. お手入れ方法	20

お買い上げありがとうございます

「たちあっぷひざたちちC回転式」は寝室やトイレなどでの立ち上がり補助・姿勢保持・移乗補助をする用具です。

販売店様：この説明書は必ずお客様に説明してからお渡してください。

ご利用者様：使用前にこの説明書を必ずお読みになり大切に保管してください。

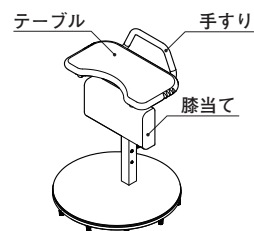
<p>警告</p>	<p>誤った使用をされた場合、「死亡や重傷につながる可能性がある」内容を警告しています。</p>	<p>⊘</p>	<p>してはいけない内容です。</p>
<p>注意</p>	<p>誤った使用をされた場合、「傷害や財産への損害につながる可能性がある」内容を注意しています。</p>	<p>!</p>	<p>必ず守っていただく内容です。</p>

1. 使用上のご注意

警告

- 立ち上がり補助・姿勢保持・移乗補助以外の用途では使用しない。
踏み台・いすなど目的以外の使用をすると事故やケガの原因になります。

- テーブルは、上半身を支える以外の用途では使用しない。
また、膝当ては、膝を当てる以外の用途では使用しない。
テーブルに腰掛けたり、物を置いたり、また膝当てにも物を置いたりしないでください。
本来の使用用途以外の使い方をすると、本体が倒れるなどの事故のおそれがあります。



- テーブルは水平方向に極端に力かける使用や角に集中する力かける使用をしない。
また、テーブルを上へ引き抜く方向に力かける使用はしない。
上記のような力掛けると本体が不安定になり、本体が倒れるなどの事故のおそれがあります。
ベースが持ち上がり床面とのすき間が発生するような使用はしないでください。

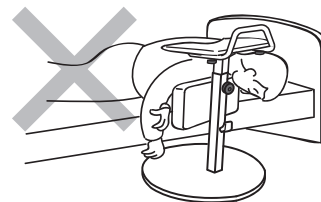


- 子供を遊ばせるなど遊具として使用しない。
本体が倒れたり、手をはさむなど想定外の事故のおそれがあります。

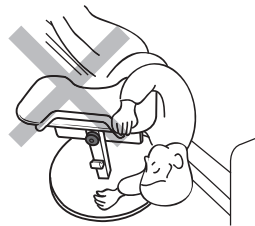


禁止

- テーブルと膝当ての間に頭や手、脚を入れない。
はさまった場合などにケガ・骨折や窒息の重大事故につながるおそれがあります。



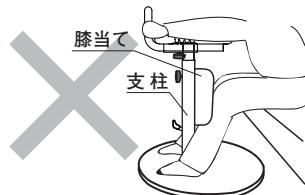
- 本体とベッドの間や、本体と便器の間などに身体を入れない。
はさまった場合などにケガ・骨折や窒息の重大事故につながるおそれがあります。




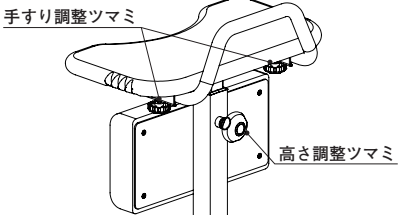


- テーブルと手すりの間に頭や手、脚を入れない。
はさまった場合などにケガ・骨折や窒息の重大事故につながるおそれがあります。


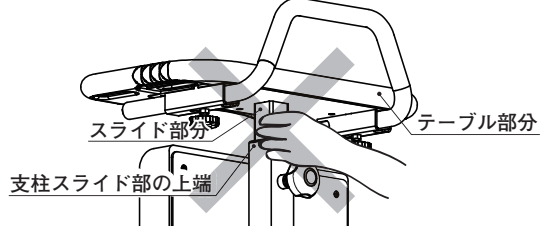
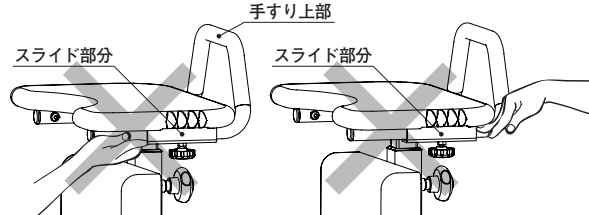


- つま先を膝当てより極端に前に出して使用しない。
つま先が膝当てより極端に前に出ると脚が支柱に接触します。
この状態で使用すると脚と支柱がからんで脚がねじれる場合がありケガをするおそれがあります。
なるべくつま先が膝当てより前に出ないようにしてください。



 禁止	<p>●手すり側から使用しない。 手すり側からの使用を想定していません。本体が不安定になり膝を膝当てのクッションに当てられません。本体が倒れたり、ケガをするおそれがありますので、必ず膝当て側からご使用ください。</p> 
	<p>●手すりに腰掛けたり、物を掛けたりしない。 本来の使用用途以外の使い方をすると、破損したり、転倒によりケガをするおそれがあります。</p>
	<p>●キャスターが床についた状態でベースに乗ったり、乗った状態で移動をしない。 キャスターが床についた状態でベースに乗ると破損やケガ、事故の原因となります。「本体の移動方法 (P7)」をご確認ください。</p>
 必ず守る	<p>●必ず介護者が付き添った状態で使用する。 介護者が一時的に目を離したりする際は利用者の安全を十分で確認の上でご対応ください。</p>
	<p>●手すりが確実に取付けられていることを確認してから使用する。 手すりが外れて事故につながるおそれがあります。</p>
	<p>●使用前には、手すり調整ツマミ 2カ所と高さ調整ツマミがしっかりと締め付けられ、ガタつきがないことを確認する。</p> 
	<p>●固定式ではないため、設置後の安定性、利用者の身体状況を確認の上で使用する。</p>
	<p>●利用者の健康状態や体調が変化した場合は直ちに使用を中止する。 ご使用を再開される場合は医師や介護士、ケアマネジャーなど専門家に相談してください。</p>
	<p>●本体や床面が濡れている場合は水分を拭き取って使用する。 滑って転倒するおそれや、製品が変色する場合があります。特にベース・手すり・テーブルは水分を拭き取って使用してください。</p>
	<p>●使用の際は、必ず本体のベースに体重が掛かった状態で手すりに力を加える。</p>
	<p>●車いすで使用の際は、必ず車いすのブレーキをかける。 車いすが動いて転倒するおそれがあります。</p>

⚠ 注意

 禁止	<p>●2人以上同時に使用しない。 本製品は 1 人用です。</p>
	<p>●利用者体重が 100kg を超える場合は使用しない。 使用中に破損するおそれがあります。</p>
	<p>●高さ調整を行う際は、スライド部分をつかんだり、支柱スライド部の上端に手を置いたりしない。 手・指をはさみ、ケガをするおそれがあります。高さ調整を行う際は、テーブル部分を持って行ってください。</p> 
	<p>●手すりの出幅調整を行う際は、手すりスライド部分に手を掛けない。 手や指を挟みケガをするおそれがあります。出幅調整を行う際は、両手で手すりの上部をつかんで手すりをスライドさせてください。手すりの出幅調整は「6. 組立手順 (P15)」をご確認ください。</p> 

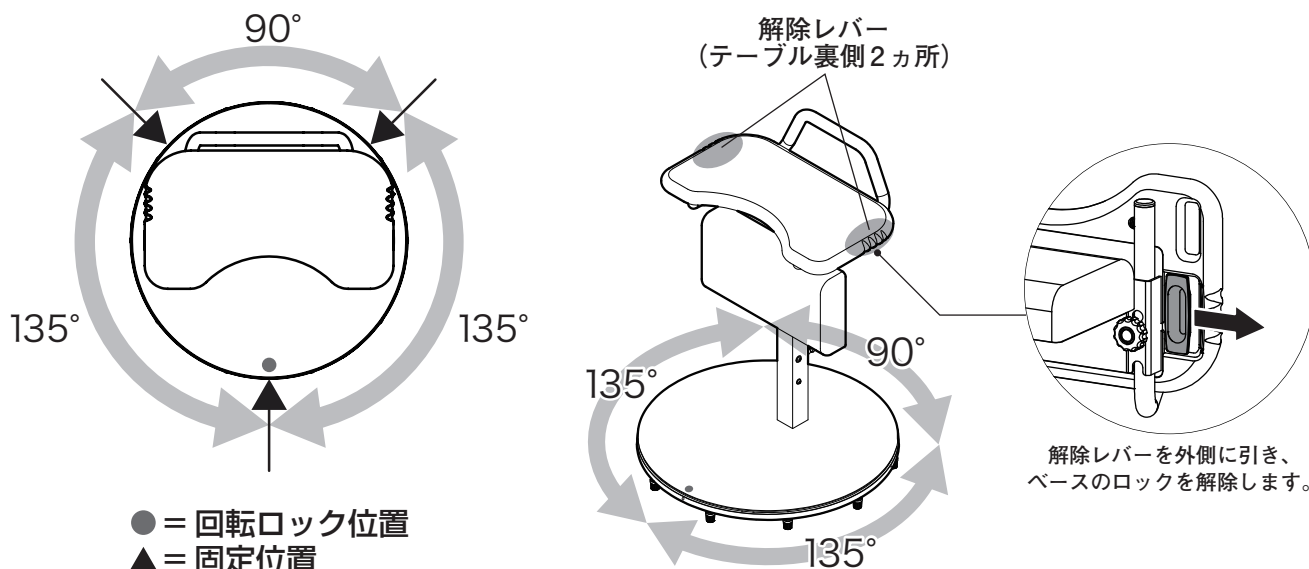
 禁止	<p>●濡れた手、脚、靴底で使用しない。 滑って転倒するおそれがあります。</p>
	<p>●車いすで使用の際は、車いすをベースに乗り上げた状態で使用しない。 車いすがベースに乗り上げた状態で使用すると、不安定になり転倒の原因になります。</p>
 必ず守る	<p>●使用の際は介護者が利用者の状態（安全に使用できる状態にあるか）を確認する。 ご使用に合わない場合は直ちにご使用をおやめください。</p>
	<p>●平らな床面に設置し、ガタつきがない状態を確認して使用する。 ガタつきがある状態で使用した場合、回転機構に支障が出る場合があります。</p>
	<p>●手すりの出幅調整は必ず介護者が行い、手すり出幅調整指定サイズの範囲内で使用する。 手すり出幅調整指定サイズは「6. 組立手順（P15）」をご確認ください。</p>
	<p>●回転ロックの解除とベースの回転は必ず介護者が行う。</p>
	<p>●利用者がベースに乗って回転する際以外は必ずベースの回転をロックする。 ベースがロックされていない状態で使用すると破損やケガ、事故の原因になります。 利用開始時にロックがかかっていることを確認してください。</p>
	<p>●裏面が平らなスリッパや厚手の靴下での使用は滑る場合があるので注意する。</p>
	<p>●ベースは必ずマットを貼り付けた状態で使用する。使用中にマットがめくれたり、たるみができた場合は整えてから使用する。 マットを使用しないと滑って転倒するおそれがあります。 また、マットにめくれやたるみがあるとつまずいて転倒するおそれがあります。</p>
	<p>●移動させる場合はフットペダルがしっかりと踏み込まれ、アジャスターが浮いている状態で行う。 アジャスターが持ち上がっていない状態で無理に引きずると床面を傷つけたり、アジャスターが摩耗するおそれがあります。 また、段差やスロープなどにアジャスターが引っかかる場合は無理に引きずらずにベースを持ち上げて移動してください。 移動させる場合のフットペダル操作及び移動は必ず介助者が行ってください。</p>
	<p>●本体を持ち上げて移動させる場合は、ベース部分を持って移動させる。 テーブルや手すり部分を持ち上げると、ねじやツマミのゆるみなどで本体が落下し、ケガをするおそれがあります。 ねじやツマミがしっかりと締まっている状態でベース部分を持って移動してください。</p>
	<p>●結露した場合は乾いた布などで拭き取る。 室内環境によって金属部品に結露が発生する場合があります。滑って転倒の原因や、床面などにカビを発生させる原因になりますので常に拭き取ってご使用ください。</p>
	<p>●製品に異常を見つけた場合は使用を中止する。 正しく設置できない場合や機能を損なう状態の場合は直ちにご使用を中止し、お買い上げの販売店にご連絡ください。</p>

2. ご使用方法

「たちあっぷ ひざたちちC 回転式」は、「手すり付テーブル」と「膝当て」により、前に倒れる心配がなく安全な移乗ができます。また、ご利用者様は体を持ち上げやすいため、抱え上げ介助をなくして介助者の負担を軽減します。介助者は後方からのサポートを行うだけで、できるだけご利用者様の残存機能を活かした移乗介助を行うことができます。トイレや脱衣室・ベッドサイドでの「立ち上がり補助・姿勢保持・移乗補助」にご使用ください。

□ 回転の操作方法

回転角度の初期設定は 90° と 135° の回転ができるようになっています。
テーブル裏側の解除レバーを引くことでロックが解除され、ベースごと回転します。
固定位置▲では自動でロックがかかります。



ベース「上面」及び「側面」には、回転がロックされる位置を示す目印として、ステッカーが貼られています。回転がロックされる位置の目安にしてください。

< ベースの回転角度の設定変更 >

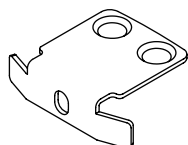
回転ロック金具の取付位置を変更することで 45° 単位でベースの回転角度を変更することができます。
設置場所やご利用者様の移乗動作に合わせて回転ロック金具の取付位置を設定してご使用ください。

回転ロック金具取付位置は全部で6カ所あります。
回転角度を 45° や 180° 等に変更したい場合は付属の六角レンチを使用し、回転ロック金具の取付位置を変更してご使用ください。
締付けトルク：12.5N・m(128kgf・cm)

例：回転角度を変更する場合は回転ロック位置を基準に残りの回転ロック金具を取り外し、45° または 180° になる位置に付け替えることで角度の変更ができます。

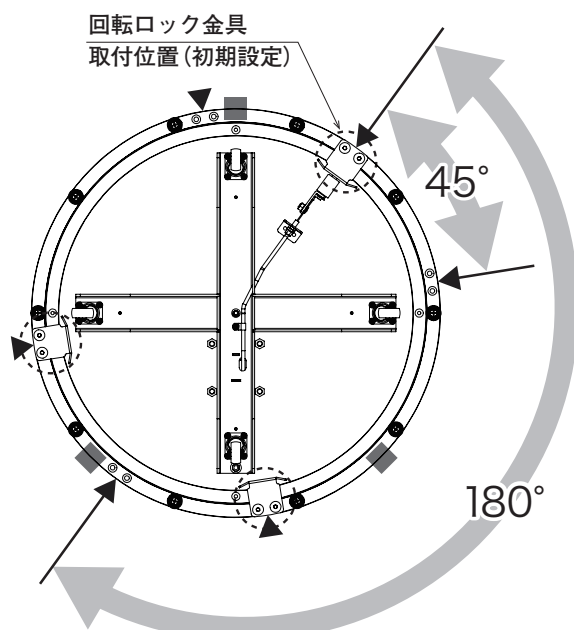
回転ロック金具の取付位置を変更した場合は、変更した回転ロック位置に合うようにステッカーの位置を貼り替えてご使用ください。

※ベース裏面の回転ロック金具取付位置は、ベース「上面」及び「側面」の回転ロック位置を示すステッカーと同じ位置になりませんのでご注意ください。



回転ロック金具

右図の▲位置に取付箇所を変更することができます。



■ = ステッカー位置(上面及び側面)
▲ = 回転ロック金具取付位置

移乗イメージ(ベッドから車いすへ)



回転操作①
テーブルの裏側にある解除レバーを引き、ベースのロックを解除します。



回転操作②
ご利用者様の臀部を支えながら回転させます。

⚠ 注意



必ず守る

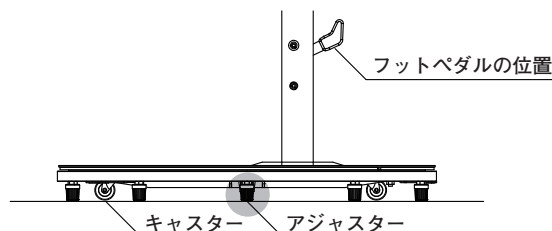
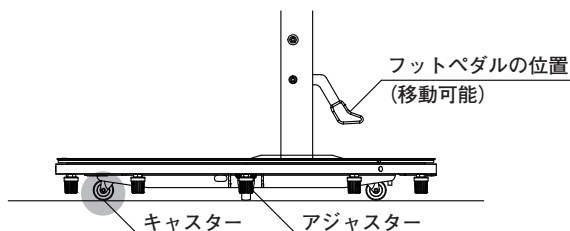
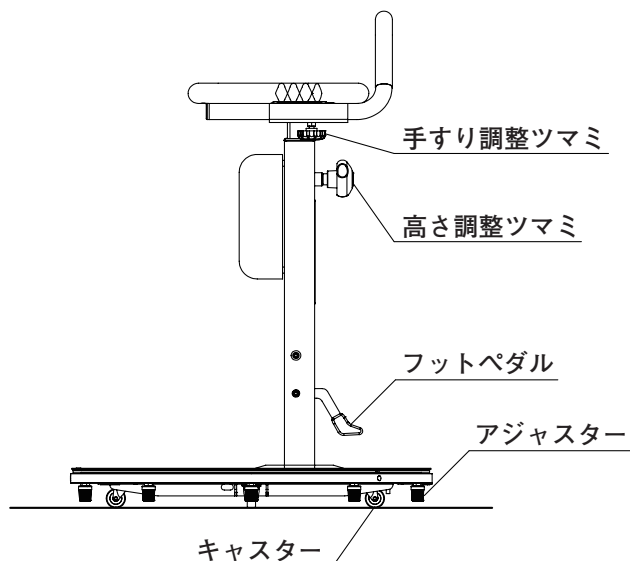
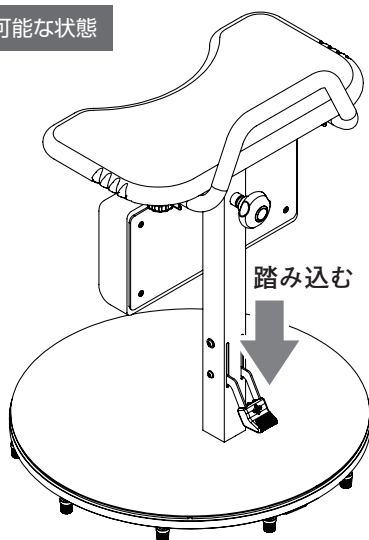
●回転させる際には利用者の安全を確保しながらゆっくり回す。
早く回転させると利用者が転倒するおそれがあります。

●利用者のかかとがベースからはみ出していないことを確認する。
回転した時に、車いすの車輪などがあたってケガをするおそれがあります。

□ 本体の移動方法

フットペダルを踏み込むとベース裏側のキャスターが床につき、ベースが持ち上がり、移動可能になります。フットペダルがしっかりと踏み込まれ、アジャスターが浮き、キャスターが床についている状態にして移動します。

移動可能な状態



フットペダルを下までしっかりと踏み込み、キャスターが床についた状態にして移動します。

設置場所へ移動したら、つま先でフットペダルを押し上げます。アジャスターが床についた状態になり固定されます。

⚠ 注意

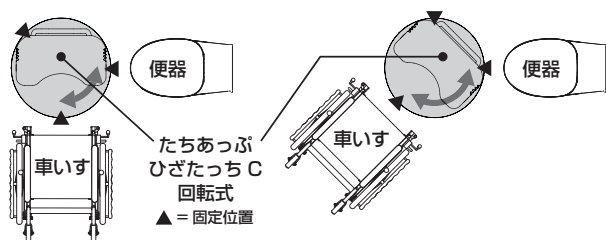
 禁止	<ul style="list-style-type: none"> ●ベースに人や物を乗せた状態でフットペダルを押してキャスターを出したり、移動をしない。キャスターが床についた状態でベースに乗ると破損やケガ、事故の原因になります。 ●フットペダルを操作する際は、ベースの下に足を入れない。ベースが下がる際にベースと床の間に足をはさみ、ケガをするおそれがあります。
 必ず守る	<ul style="list-style-type: none"> ●移動させる際はツマミのゆるみがないか、ベースの回転機構がロックされているかを確認する。 ●移動させる際は、フットペダルがしっかりと踏み込まれ、アジャスターが浮き、キャスターが接地している状態で移動を行う。アジャスターが接地している状態で無理に引きずると床面を傷つけたり、アジャスターが摩耗するおそれがあります。また、段差やスロープなどにアジャスターが引っかかる場合は無理に引きずらずにベースを持ち上げて移動してください。 ●移動は室内の平らな床面で行う。床面の凹凸、スロープなど乗り越え等困難な場合は無理に移動せずベースを持ち上げて移動してください。

□移乗介助の例①（車いすからトイレへ）

「たちあつぷ ひざたちち C 回転式」を使用した、車いすからトイレへの「移乗介助」手順の一例です。

※実際の動作は、ご利用者様の状態や利用状況に合わせてご使用ください。

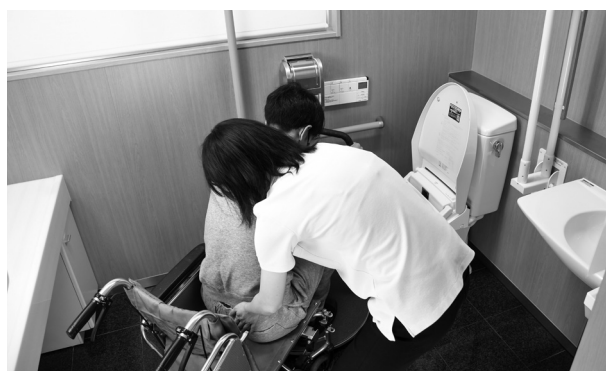
- 1.** 本体は車いすの正面にくるように配置します。
※入口からの動線に合わせ 90°、135° 等回転角度を合わせて設置してください。
便座に座った際に、膝が膝当てに触れる位置が最適です。テーブルの高さはご利用者様の体格と症状に合わせて調整してください。（車いすのブレーキがかかっていること、アームレスト・フットレストがある場合は移乗の妨げにならないかを確認してください。）



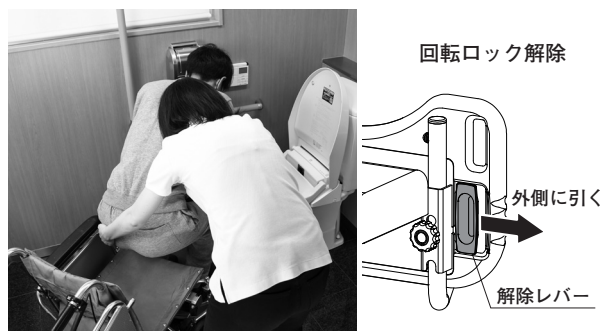
- 2.** ご利用者様の足をベースの上に置き、手すりを握ってもらいます。つま先が膝当てよりも前に出ていないこと、かかとがベースから出ていないことを確認してください。



- 3.** ご利用者様に手すりで体を支えてもらい、ご利用者様の下半身を支えながら車いすに浅座りしてもらいます。



- 4.** ご利用者様にできる範囲で体を持ち上げてもらい、ご利用者様の下半身を支えながらテーブル側面裏にある解除レバーを引きます。まわりの障害物等に気を付けて回転させます。



- 5.** ロック位置で自動で回転ロックされます。ご利用者様に手すりとテーブルで体を支えてもらっている間に、下着をおろします。



- 6.** ご利用者様の下半身を支えながらゆっくりと便座に腰掛けてもらいます。

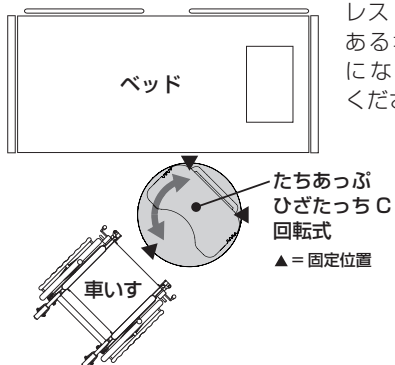


□移乗介助の例②（ベッドから車いすへ）

「たちあっぷ ひざたち C 回転式」を使用したベッドから車いすへの「移乗介助」手順の一例です。

※実際の動作は、ご利用者様の状態や利用状況に合わせてご使用ください。車いすを使用する際は、必ずブレーキをかけてご使用ください。

1. ベッドと車いすの正面に固定位置（135°）が来るように設置します。浅座りをして、膝が膝当てに触れる位置がベストです。テーブルの高さはご利用者様の体格と症状に合わせて調整してください。（車いすにアームレスト・フットレストがある場合は移乗の妨げにならないか確認してください。）



2. ご利用者様に端座位をとってもらい、手すりをつかんで前傾姿勢をとってもらいます。つま先が膝当てよりも前に出していないこと、かかとがベースから出していないことを確認してください。



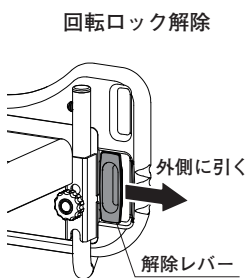
3. ご利用者様に手すりですてをえてもらい、ご利用者様の下半身をえながら、ご利用者様に浅座りをしてもらいます。



4. ご利用者様に合図をして立ち上がってもらいます。この際、ご利用者様の上体を前方（斜め上）へ押すと腰が浮きやすくなります。前に倒れる心配がなく、膝折れも防止でき、立ち上がりが容易になります。



5. ご利用者様がしっかりベースに乗っていることを確認し、テーブル側面裏の解除レバーを引き、回転ロックを解除します。ご利用者様の体をえながら回転させます。



6. 移乗先についたら、自動の回転ロックがかかったことを確認してゆっくり腰をおろしてもらいます。移乗の際は、移乗先に一気に深く腰掛けるのではなく、まずは浅座りをします。（次ページに続きます）



- 7.** ご利用者様に合図をして、腰が上がったタイミングに合わせ、下半身を支えながら深く腰をかけていただきます。



- 8.** しっかり移乗できたことを確認して、ご利用者様に手を手すりから離してもらいます。
腰への負担が少なく方向転換もでき、簡単に移乗することができます。

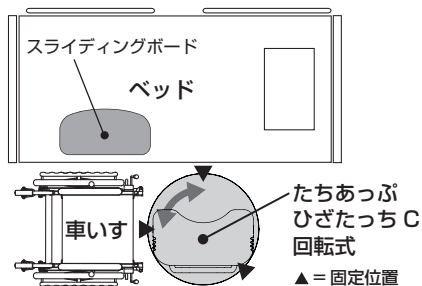


□移乗介助の例③（ベッドから車いすへ：スライディングボードを使用した移乗）

「たちあっぷ ひざたち C 回転式」を使用したベッドから車いすへの「移乗介助」手順の一例です。

※実際の動作は、ご利用者様の状態や利用状況に合わせてご使用ください。アームレストの跳ね上げ機能がある車いすを使用してください。
車いすを使用する際は、必ずブレーキをかけてご使用ください。

- 1.** ベッドと車いすの正面に固定位置（90°）が来るように設置します。浅座りをして、膝が膝当てに触れる位置がベストです。テーブルの高さはご利用者様の体格と症状に合わせて調整してください。（車いすの移乗側のアームレストは跳ね上げてください。フットレストがある場合は移乗の妨げにならないか確認してください。）



- 2.** ご利用者様に端座位をとってもらい、手すりをつかんで前傾姿勢をとってもらいます。
つま先が膝当てよりも前に出していないこと、かかとがベースから出していないことを確認してください。



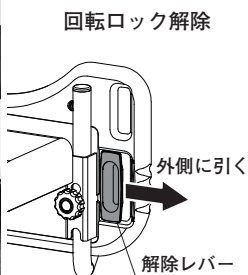
- 3.** 介助者はベッドに脚をかけて、ご利用者様の下半身を支えながら、ご利用者様に浅座りをしてもらいます。（浅座りの際に膝が膝当てに当たる状態がベストです。）



- 4.** 体が倒れないようにサポートしながらスライディングボードを移乗側のお尻の下から車いすにまたぐように設置します。（次ページに続きます）



- 5.** 介助者はご利用者様の横に座り、ご利用者様がしっかりと手すりをつかみ、しっかりベースに乗っていることを確認し、テーブル側面裏の解除レバーを引き、回転ロックを解除します。ご利用者様の体勢に注意しながら臀部を横から押し付け回転させます。



- 6.** 移乗先についたら、自動の回転ロックがかかったことを確認してご利用者様の体が倒れないようにサポートしながらスライディングボードを取り外します。



- 7.** ご利用者様の下半身を支えながらご利用者様に合図をして、腰が上がったタイミングに合わせ、下半身を支えながら深く腰をかけていただきます。



- 8.** しっかり移乗できたことを確認してから跳ね上げていた車いすのアームレストを戻し、ご利用者様に手を手すりから離してもらいます。腰への負担が少なく方向転換もでき、簡単に移乗することができます。



3. 設置上のご注意

⚠ 警告



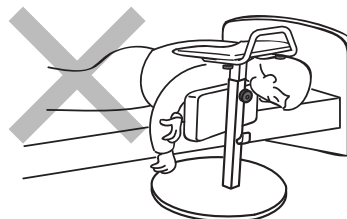
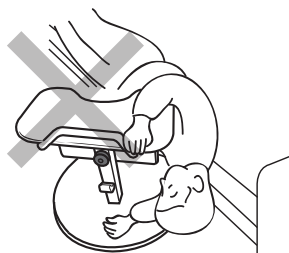
禁止

●弊社製品と他社製品を組み合わせない。
破損やケガの原因になります。また、他社製品と組み合わせた製作物の安全は保証できません。

●改造・加工は絶対に行わない。
事故の原因になります。

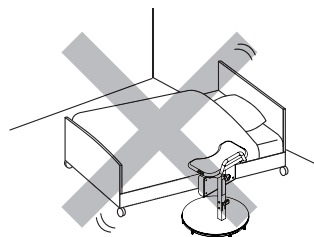
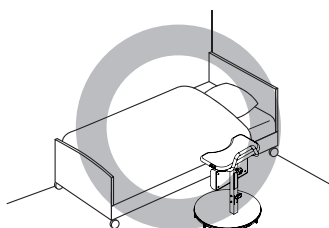
●設置後、ガタつき・ねじやツマミのゆるみ・締め忘れがないことを必ず確認する。

●ベッドサイドに置く場合は、「たちあっぷ ひざたち C 回転式」と寝具とのすき間に頭や首、手、脚を入れないように注意する。
身体をすき間にはさむと窒息や骨折などの重大事故につながるおそれがあります。



必ず守る

●キャスター付きのベッドで使用する場合は、必ずキャスターを固定する。
キャスターにロック機構がある場合は必ず使用してください。ロック機構がない場合には、キャスターホルダーを使用するなど、必ずベッドが動かないように固定してください。(ベッドは壁に接するように設置すると安定します)



●電動ベッドで使用する場合は、頭や手・脚がはさまった状態で操作すると、身体の傷害や生命にかかわる事故を発生させるおそれがあるので注意する。

電動ベッドで使用する場合は、利用者の身体がはさまらない安全な間隔で設置してお使いください。
また、電動ベッドの手元スイッチは無意識に触れて誤操作しないように置く場所には十分注意してください。

⚠ 注意



禁止

●指定締め付けトルク値以上で締め付けない。
破損するおそれがあります。「2. ご使用方法 (P5)」・「6. 組立手順 (P15)」で示すトルク値にしたがって締め付けてください。

●電動工具(電動ドライバー等)を使用しない。
過剰トルクで締め付けるとねじの破損の原因になります。
(ねじの締め付け摩擦熱により焼き付けが発生し、締め付け・取外しができなくなる可能性があります。)

●屋外や直射日光の当たる場所では使用しない。
金属部分が熱くなり火傷の原因になります。変質・軟化・変形または破損するおそれがあります。

●火のそば・熱器具(ストーブ等)の近くでは使用しない。
金属部分が熱くなり火傷の原因になります。変質・軟化・変形または破損するおそれがあります。

●浴室・浴そう内では使用しない。



必ず守る

●室内で使用する。

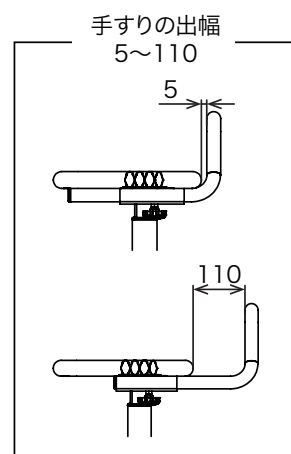
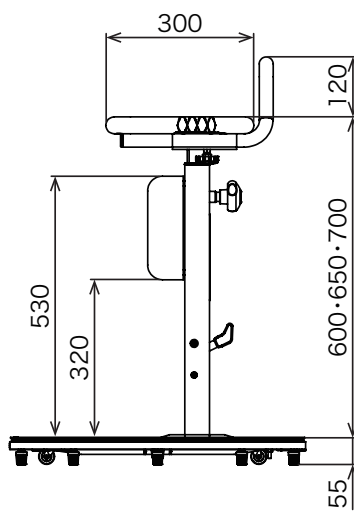
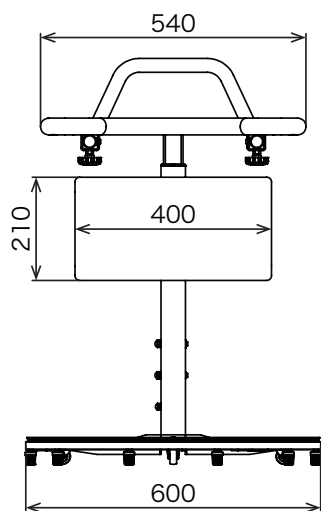
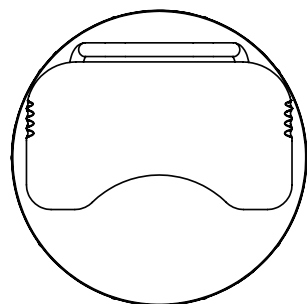
●平らな床面に設置し、ガタつきがない状態を確認して使用する。

●定期的(推奨点検期間1カ月ごと)にガタつき・ねじやツマミのゆるみ・部品の破損・その他異常がないことを確認する。

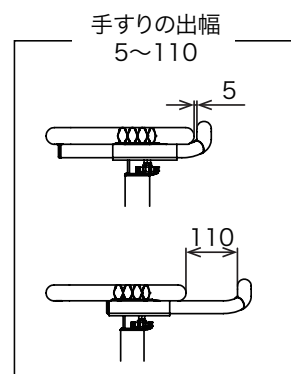
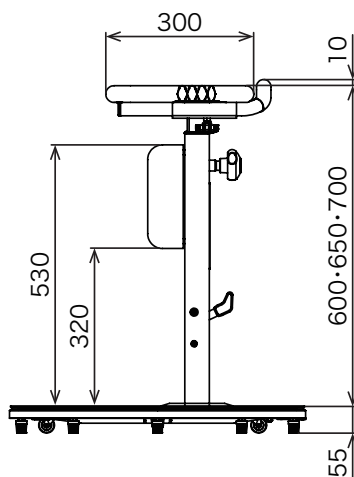
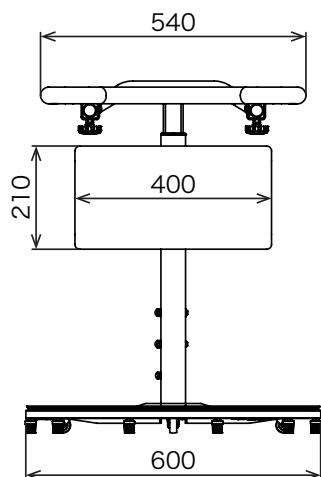
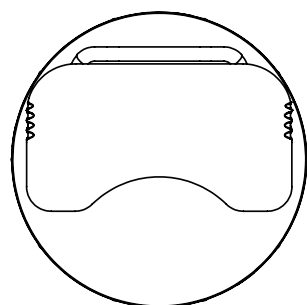
●クッションフロア材(塩化ビニル製)などの上に長時間設置するとクッションフロア材にへこみや色移りする場合があるので注意する。

4. 仕様

単位：mm



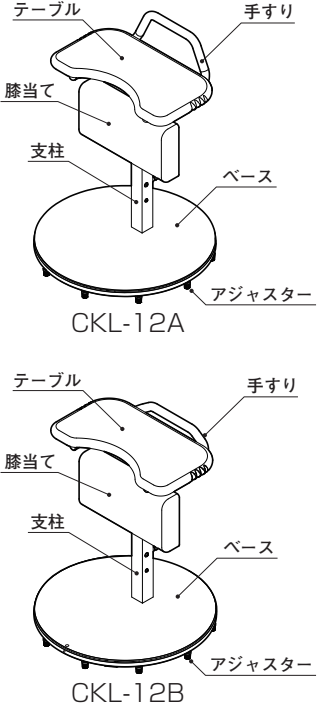


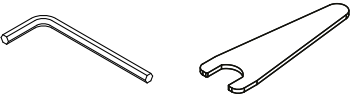
品 名	たちあっぷ ひざたち C 回転式
品 番	CKL - 12A
質 量	29kg



品 名	たちあっぷ ひざたち C 回転式
品 番	CKL - 12B
質 量	29kg

5. 部品表

- 部品が全て揃っているかご確認ください。
- 部品が揃っていない場合は、お買い上げの販売店へご連絡ください。

	名 称	材 質	部 品 図	数 量
①	たちあっぷ ひざたちC 回転式 本体	ステンレス、スチール、樹脂	 <p>CKL-12A</p> <p>CKL-12B</p>	1
②	六角穴付きボタンボルト (M 8 × 16mm)	ステンレス		2
③	ばね座金M 8	ステンレス		2
④	付属工具 ・六角レンチ (対辺 5mm) ・スパナ (10mm)	スチール		各 1

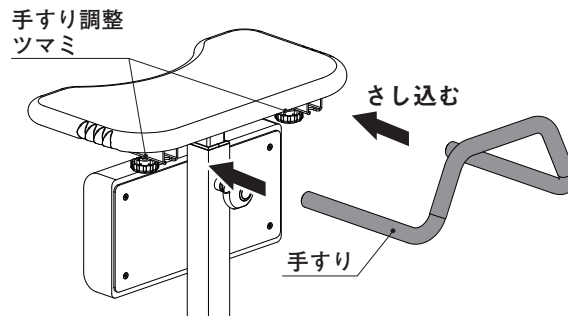
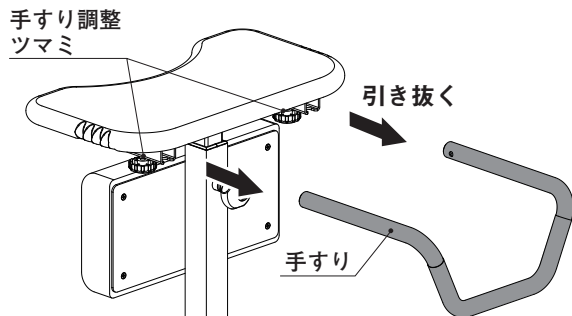
6. 組立手順

※組立は納入業者が行ってください。

6-1. 手すりを差し替える

開梱時は手すりが下向きに取り付けられています。

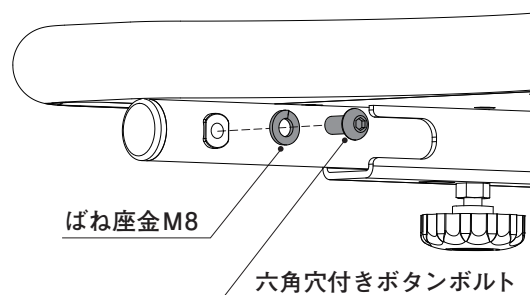
手すりを固定している手すり調整ツマミをゆるめて引き抜き、手すりが上向きになるようにさし込んでください。



6-2. 手すりを取り付ける

手すりの出幅調整を行う際の抜け防止として、さし込んだ手すりの横穴に、ばね座金と六角穴付きボタンボルトを六角レンチで固定します。

締付けトルク：5.2N・m（53.1kgf・cm）

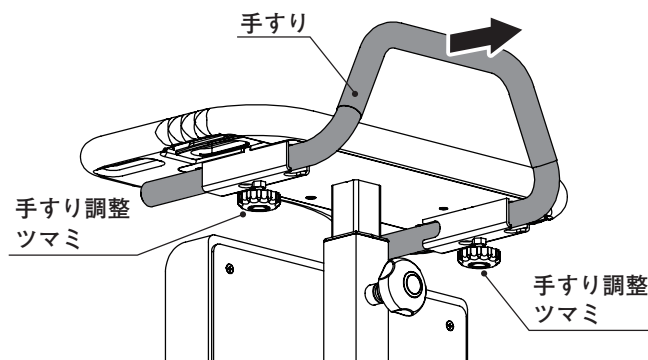


6-3. 手すりの出幅調整をして固定する

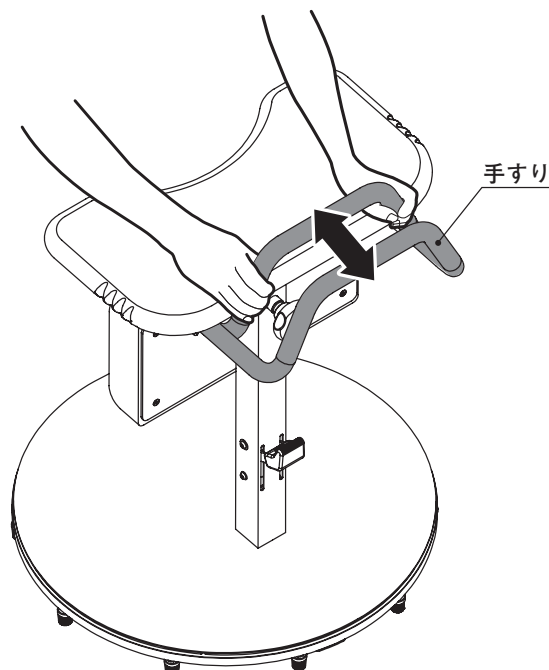
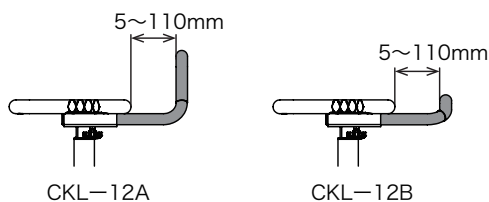
手すりの2ヵ所の手すり調整ツマミを回しゆるめ、手すり部を両手でつかんでスライドしてください。

位置が決まったら、手すり調整ツマミを強く締めつけて固定してください。

出幅調整は下記「手すり出幅調整指定サイズ」の範囲内で行ってください。（無段階調整可能）



手すり出幅調整指定サイズ



⚠ 注意




必ず守る

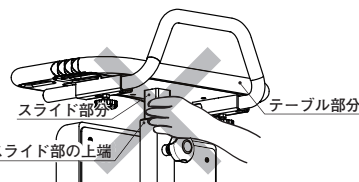
●手すりの出幅調整後、手すり調整ツマミ 2ヵ所がしっかりと締め付けられ、ガタつきがないことを確認する。

7. テーブルの高さ調整

テーブルの高さは、60・65・70cmの3段階に設定できます。ご利用者の体格や症状に合わせて調整してご使用ください。
※開梱時は最低高さの60cmにセットされています。

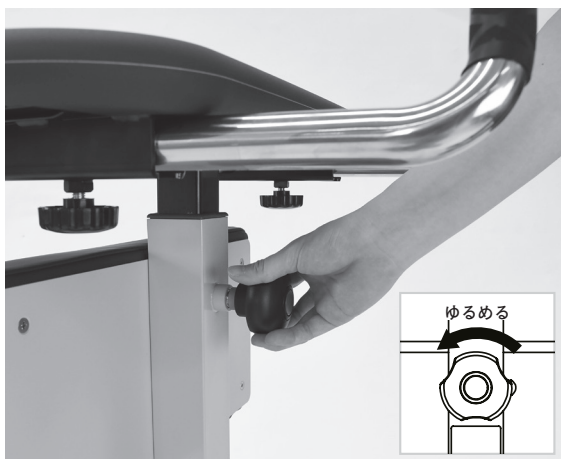
7-1. テーブルの高さ調整

⚠ 注意	
 禁止	<p>●高さ調整を行う際は、スライド部分をつかんだり、支柱スライド部の上端に手を置いたりしない。 手・指をはさみ、ケガをするおそれがあります。高さ調整を行う際は、テーブル部分を持って行ってください。</p> <p>●テーブルに利用者の体重がかかっている状態で高さ調整をしない。 重みでテーブルが下がり、ケガをするおそれがあります。</p>



高さ調整手順 ①

まず、高さ調整ツマミを左に1～2回転して、ねじをゆるめます。



高さ調整手順 ②

片手でテーブル中央を持ちながら、高さ調整ツマミを手前に引きます。高さ調整ツマミを引くとテーブルの調整ピンが解除され、テーブルが上下に動くようになります。

※高さ調整はダンパーにより持ち上がるように設計されております。下げる場合はテーブル中央を上から押し付けて調整してください。テーブルが動きましたら高さ調整ツマミを離して構いません。



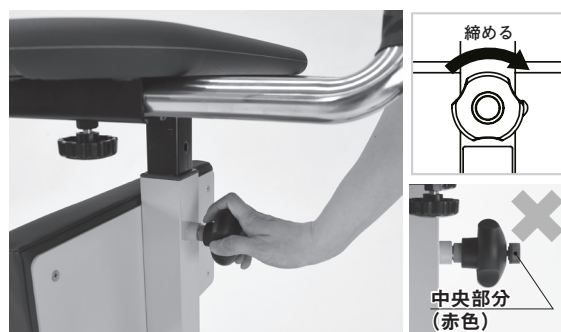
高さ調整手順 ③

テーブルを上下させると高さ調整ツマミが自動で戻り、固定されます。(調整できるテーブルの高さは60・65・70cmの3段階です) 手順②の操作を繰り返しテーブルの高さを決めてください。



高さ調整手順 ④

高さが決まりましたら、高さ調整ツマミが戻ったことを確認して高さ調整ツマミを右に回してねじを締めます。




ねじを締め付けた際にツマミの中央部分(赤色)が飛び出している場合はピンが入っていない状態となるため、ねじを一度ゆるめ、高さ調整を行いピンが穴に入ったことを確認し締めなおしてください。

注. 必要以上に締め付けますと、ねじを破損させる原因になりますのでご注意ください。

7-2. 調整後の確認

最後に全体のガタつきや高さ調整ツマミのゆるみがないことを確認してください。

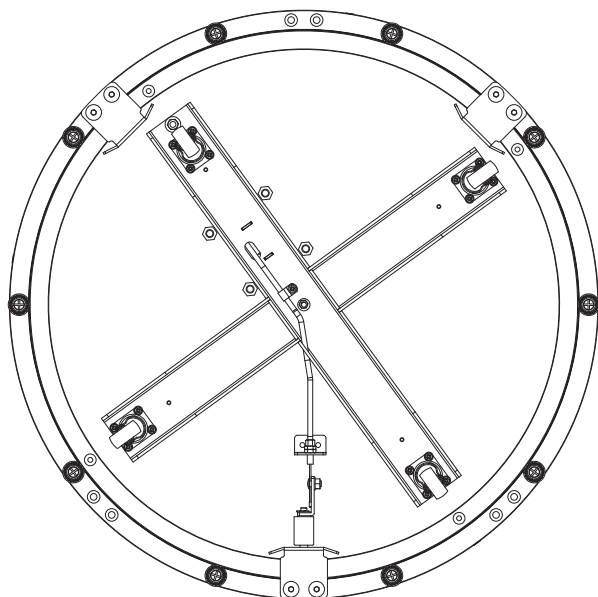
⚠ 注意	
 必ず守る	<p>●調整後、高さ調整ツマミがしっかりと締め付けられ、テーブル部分にガタつきがないことを確認する。 取り付けが不十分だと、使用中にテーブルが下がるなどの事故やケガの原因になります。</p>

8. ロック機構メンテナンス方法

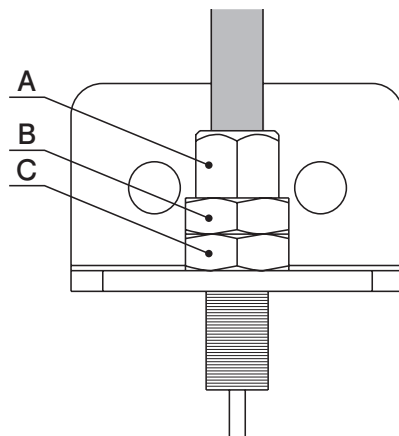
ベースの回転ロックが解除できなくなったり（ロックピンが抜けない）、ベースの回転が重くなった際は、下記の方法で調整をしてください。

8-1. 回転ロックの調整

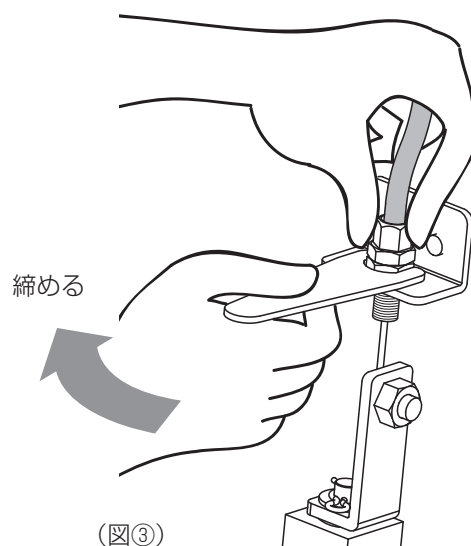
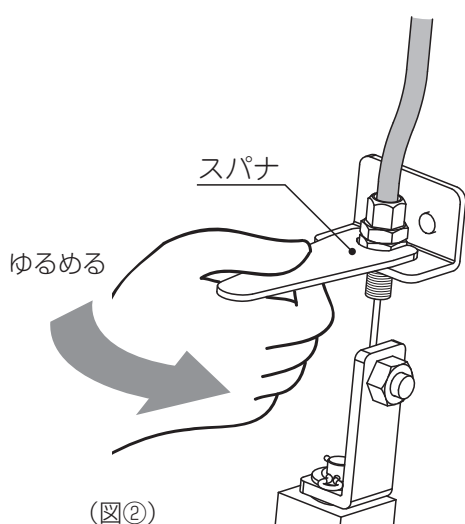
- ①まず、ベース裏面の調整ができるようにゆっくりと本体を横に寝かせてください。
作業する床面にシートなどを敷いて作業すると傷防止になり安心です。



<調整ナット拡大図>



- ②付属工具の 10mm スパナを使用し、調整ナットC をゆるめてください。(図②)
ナット全体がゆるみます。
- ③調整ナット A を指で回らないように固定しながら調整ナットC を締めてください。(図③)
②、③を繰り返し、ロックピンが抜けてロックが解除されるように調整してください。

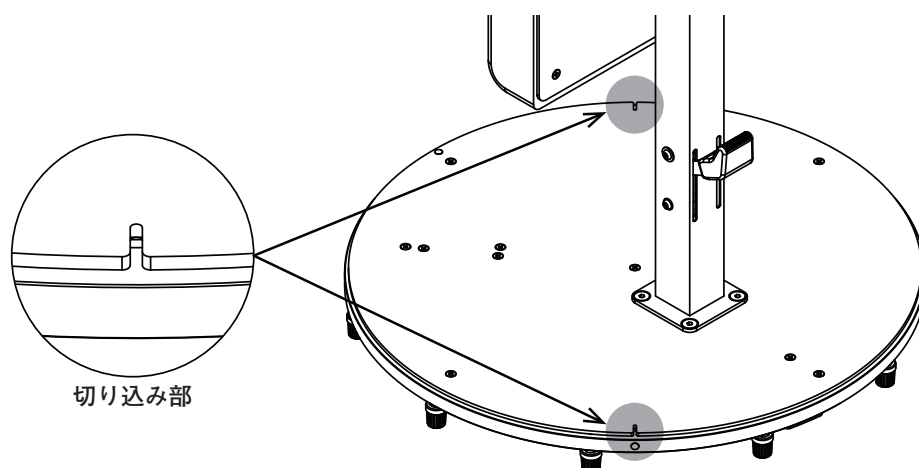


- ④ロックが解除されることを確認できたら、最後に回り止めとなる調整ナットB を締めて調整完了となります。

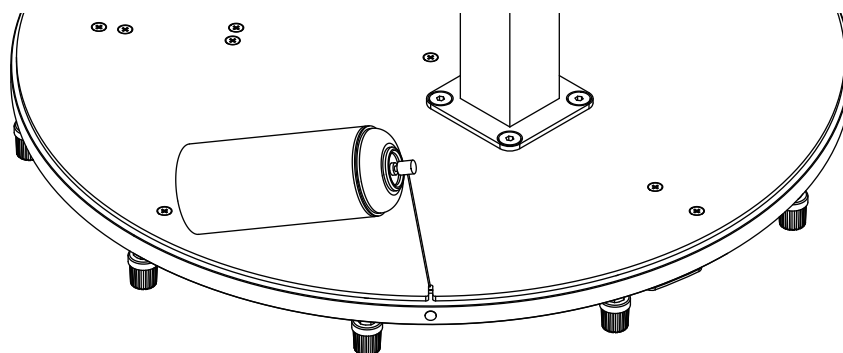
以上の調整を行ってもロック解除ができない場合は、お買い上げの販売店までご相談ください。

8-2. ベース回転部の調整

①まず、ベースマットをめくり、ベース回転部表面にある 2カ所の切り込み部を確認してください。



②切り込み部からベース回転部のすき間を狙い、市販スプレー式グリスを注入（1 秒程度噴射）してください。
注入後、ベースを回転させてなじませてから回転具合を確認してください。

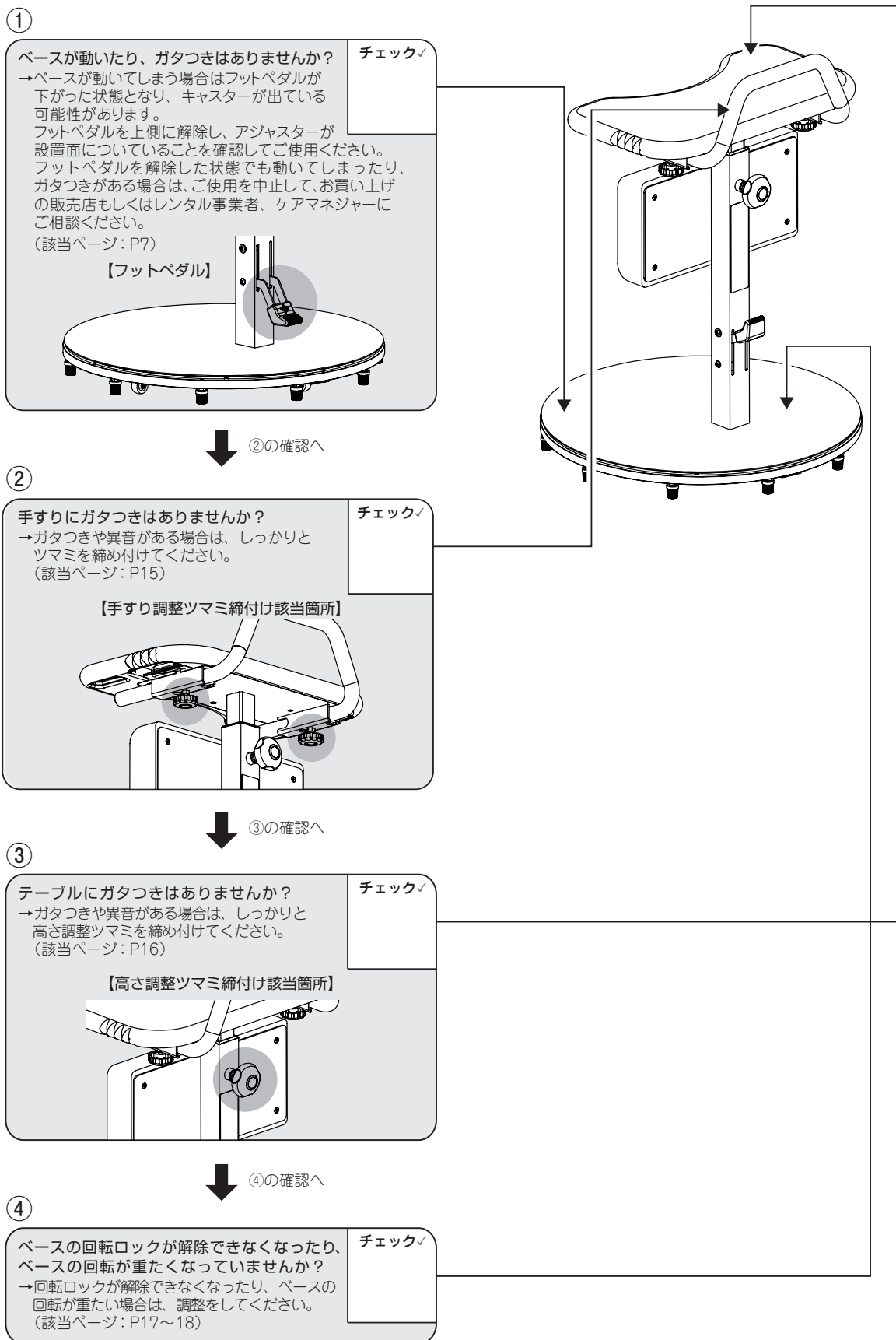


以上の調整を行ってもベースの回転が重たい場合は、お買い上げの販売店までご相談ください。

9. ご使用前の確認

！ 設置完了後、また定期点検時に、ガタつき・ねじやツマミのゆるみ・部品の破損がないか確認してください。

■ 確認チェックは下記番号順に進めてください。





上記の確認をしても異常がある場合は、お買い上げの販売店にご相談ください。

10. お手入れ方法


10-1. 日常のお手入れ

- 水か中性洗剤を含ませた布を固く絞って拭いてください。

⚠ 注意	
 禁止	● 酸性・アルカリ性洗剤は使用しない。 錆、変色、変質、塗装の剥がれの原因になります。必ず中性洗剤を使用してください。
	● シンナー・ベンジンなどは使用しない。 変質して破損するおそれがあります。
	● たわしや磨き粉などで磨かない。 傷がつくおそれがあります。
	● 直接水をかけて洗わない。 腐食や変質の原因となります。
 必ず守る	● 直射日光を避けて、陰干しする。



10-2. 点検

- 定期的（推奨点検期間 1 カ月ごと）に点検を行い、ガタつき・ねじやツマミのゆるみ・部品の破損・マットのめくれ・その他異常がないことを確認してください。
- ベースの回転が悪くなった場合は「8. ロック機構メンテナンス方法（P17）」を確認し調整してください。
調整を行ってもベースの回転が重たい場合はお買い上げの販売店にご相談ください。

⚠ 注意	
 必ず守る	● 定期的（推奨点検期間 1 カ月ごと）にガタつき・ねじやツマミのゆるみ・部品の破損・マットのめくれ・その他異常がないことを確認する。 異常があった場合は、直ちに使用を中止し、お買い上げの販売店へご相談ください。

10-3. 消毒方法

- アルコール清拭消毒、逆性石鹼消毒などを推奨します。消毒後は、仕上げに水拭きをしてください。
- この製品に使用している素材の物性を考慮した消毒方法を選択してください。
- 塩素系の消毒液を使用する場合は、使用する消毒液の使用方法及び使用上の注意に従い、希釈して使用し、仕上げに水拭きをしてください。
(参考：次亜塩素酸ナトリウム 6% 水溶液なら 120 倍～300 倍程度に希釈)

⚠ 注意	
 禁止	● オゾンガス、ホルムアルデヒドガスは使用しない。 変質して破損するおそれがあります。
 必ず守る	● アルコール系の消毒液や逆性石鹼、塩素系の消毒液が付着した場合は水拭きをし、製品表面に消毒液が残らないようにする。 錆、変色、変質、塗装の剥がれの原因になります。

10-4. 保管方法

- 製品は直射日光の当たらない乾燥した常温の室内で保管してください。

⚠ 注意	
 必ず守る	● 製品は直射日光の当たらない乾燥した常温の室内で保管する。 高温多湿の場所で保管すると、変形、結合部の外れの原因になります。

[illegible]

[illegible]

保証書

お客様	お名前	様
	ご住所	〒
	電話	— —
対象商品		
ロット番号		
お買い上げ日		(西暦) 年 月 日
販売店		住所 店名 電話 — —

無料修理規定

1. 保証の適用

取扱説明書等の注意事項にしたがった正常な使用状態で本品の不良による著しい変形・破損・ゆرمい・はずれ・割れの故障が発生した場合には無料修理させていただきます。

2. 保証の期間

保証の期間は、お買い上げ日より起算し、1年間の経過日までとします。

3. 免責事項

次に該当する場合、保証期間内であっても保証対象外となります。

ただし、お客様のご要望により有料にて修理対応させていただきます。

- ①. お客様が適切な使用、維持管理を行わなかったことによる故障及び損傷等の不具合。
- ②. お買い上げ後の輸送または、移動時の落下など、お取扱いが不適当なために生じた使用上の誤り、お客様の改造による故障及び損傷。
- ③. カタログ、取扱説明書などに記載されている以外の不適当な条件、環境、取り扱い、使用方法などに起因した故障の場合。
- ④. 弊社製品の改造及び弊社製品以外の製品を接続したことに起因する場合。
- ⑤. 弊社または弊社の指定業者以外が修理・改造したことに起因する場合。
- ⑥. 取扱説明書、カタログなどに記載されている消耗部品などが正しく保守交換されていなかったことに起因する場合
- ⑦. 自然特性または、通常の経年変化に起因する摩耗・退色・変色などによるもので使用上支障のないもの。
- ⑧. 使用に伴う摩耗等による外観上の不具合。
- ⑨. 海岸付近、温泉地などの地域における腐食性の環境に起因する不具合。
- ⑩. 温泉水、井戸水などであって、飲料水の水質基準に適合しない水を使用したことに起因する不具合。
- ⑪. 火災・地震・水害・落雷・噴火・津波等その他天災地変などによる自然現象に起因し、被害をうけたもの。
- ⑫. 動物、昆虫等の生物の行為に起因する不具合。
- ⑬. 保証期間経過後に申し出されたもの、または保証該当事項の発生後すみやかに申し出のなかったもの。
- ⑭. 本書のご提示がない場合。
- ⑮. 本書にお買い上げ日、お客様名、販売店名の記入のない場合、あるいは字句を書き換えられた場合。

以上の内容は、日本国内での取引及びご使用を前提とします。

なお、この保証書は再発行いたしませんので、大切に保管してください。

<連絡先>

お客さま相談室

 0120-054-280 FAX 0120-054-281

● フリーダイヤル 9:00~16:00 (月~金) ● FAX 24時間毎日

矢崎化工株式会社 〒422-8519 静岡県静岡市駿河区小鹿2-24-1

※製品の仕様等は、予告なく変更する場合がございますのでご了承ください。

● 矢崎化工株式会社

■ 本 社 〒422-8519 静岡県静岡市駿河区小鹿 2-24-1

■ 北 海 道 支 店 福祉介護課
〒072-0007 北海道美唄市東 6 条北 8-2-1
TEL 0126-63-4285

■ 神 奈 川 支 店 福祉介護課
〒257-0024 神奈川県秦野市名古木 3-4
TEL 0463-81-4315

■ 九 州 支 店 福祉介護課
〒820-0702 福岡県飯塚市平塚 481-1
TEL 0948-72-0310

■ 仙 台 支 店 福祉介護課
〒981-1223 宮城県名取市下余田字中荷 280
TEL 022-382-2145

■ 名 古 屋 支 店 福祉介護課
〒484-0963 愛知県犬山市字鶴池 48-2
TEL 0568-67-0111

介護支援ページ
kaigo-web
<https://www.kaigo-web.info/>



■ 関 東 支 店 福祉介護課
〒373-0823 群馬県太田市西矢島町 88
TEL 0276-38-4562

■ 大 阪 支 店 福祉介護課
〒569-8551 大阪府高槻市大塚町 5-1-1
TEL 072-672-8440

■ 東 京 支 店 福祉介護課
〒359-0023 埼玉県所沢市東所沢和田 1-38-3
TEL 04-2944-7113

■ 広 島 支 店 福祉介護課
〒738-0042 広島県廿日市市地御前 1-7-17
TEL 0829-36-1111

22082512

DW-291-03